

厚労科研KK班 咀嚼指導法および咀嚼指導マニュアルの 開発と普及に向けた意見交換会

<主催>

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
「口腔機能に応じた保健指導と肥満抑制やメタボリックシンドローム改善との関係についての
研究」班（研究代表者：安藤雄一）

<会の目的>

本研究班では、口腔機能に応じた保健指導として咀嚼指導法をとくに特定保健指導のなかに位置づけることを目指し、幅広い研究に取り組んでいます。なかでも現場の方々が利用できるマニュアル（咀嚼指導マニュアル）の作成を重視しています。本意見交換会では、この一環として、事業の実践に関わっている様々な立場の方々から現状の取り組みや今後の展望についてのお話を聞きし、意見交換することにより、咀嚼指導マニュアルの内容改善を図り、今後の進展につなげていきたいと考えています。

<日時、会場>

日時：2011 年 3 月 1 日（火） 14～17 時
会場：オフィス東京・L4 会議室
参加：25 名（予定、別紙参照）

<次第>

1. 開会挨拶および意見交換会の主旨説明（安藤）

意見交換会資料 1 参照

2. 咀嚼指導マニュアルの意義と現状（石濱・深井）

意見交換会資料 2-1,2 参照

3. 外部関係者による発表

1) 厚労科研フィールドとしての現状報告

橋本直子（三重県大台町健康ほけん課、保健師）

意見交換会資料 3 参照

- ・噛む回数を気にしていると、おいしく食事を食べることが出来なくなってしまうので、導入には工夫が必要。
- ・マニュアルには専門用語が多いし、馴染みの少ない統計などが記載されているので、普及のためには、改善が必要。
- ・記録票を含め、対象者によって（若者か高齢者か）内容を変える必要があるかもしれない。

2) 特定保健指導に歯科教室を取り入れて

城田圭子（三重県菰野町健康福祉課、保健師）

意見交換会資料 4 参照

- ・関連業種団体との連携は、壁や領域意識のようなもののため、困難なことが多い。領域を侵すのではなく、協力してやっていこうという姿勢が大切。
- ・実際に歯科治療によって噛める食品が増え、栄養状態が改善したというケースがある。

3) 栄養と歯科が連携した事業の取組報告

千ヶ崎純子（東京都足立区保健所、管理栄養士）原島玲子（歯科衛生士）

意見交換会資料 5 参照

- ・教育委員会と連携して、指導要綱に「歯」の日を盛り込んでもらっている。また、ポスターを作成し、各クラスに掲示してもらっている。
- ・キーパーソンは、栄養士、校長、PTA など、その学校によってさまざまであり、行政からの指定はしていない。

4) 「歯周疾患健診」と「特定健康診査」との壁その打開策は？

高澤みどり（千葉県市原市・保健センター、歯科衛生士）

意見交換会資料 6 参照

- ・千葉には 54 市町村があり、特殊な状況といえるかもしれない。
- ・歯周疾患健診説明研修会の目的は、歯周疾患健診の普及に加え、連携の場とすること。

5) 地域高齢者の咀嚼機能検査を行って解ったこと

富永一道（島根県邑南町開業、歯科医師）

意見交換会資料 7 参照

- ・グミキャンディを咀嚼して 2 つにわけることが困難な対象者もいる。
- ・調理の有無は大きなファクターで、女性は自分が食べられるような食事を作ることができるが、男性は出来ないので「噛めない」ことがある。

6) 産業歯科保健との関わり

加藤元（日本 IBM 健康保険組合予防歯科、日本産業衛生学会歯科保健部会長）

意見交換会資料 8 参照

- ・産業歯科保健で大切なのは、健康を守って仕事ができる状態にすること。
- ・単に早食いをやめるように指導するだけでなく、どうして早食いになるのかを考えることも必要。職場での合席が原因なら一人席を作る取組をする。

7) 新潟県での成人歯科健診の取り組み

佐藤徹（新潟県歯科医師会常務理事、日本歯科医師会地域保健委員会幹事）

意見交換会資料 9 参照

8) 日歯が提唱する新しい成人歯科健診との関わり

池主憲夫（日本歯科医師会常務理事）

意見交換会資料 10 参照

9) 平塚市の栄養・歯科保健事業について

伊藤淑江（神奈川県平塚市・健康保健課、管理栄養士）、小山朱美（歯科衛生士）

意見交換会資料 11 参照

意見交換会では、別添資料を基に、諸地域におけるさまざまな取り組みが紹介された。他職種との連携や関係団体との連携に関する問題点や課題、対処方法などについて活発な討論が行われた。今後、研究班ウェブサイトを活用して、意見交換会での討論内容の普及および更なる意見交換を行う予定である。